

二〇二三年を締め括る音楽会が今終わろうとしています。生徒全員の想い、情熱、感動。そして、個性豊かな美しい音楽で満ち溢れたこの空間は、私たちの集大成です。全員で音楽を創り上げられたこと、そして、私たちの音楽を大ホール中に響かせお客様にお届けできたこと、心から嬉しく感謝の気持ちで一杯です。

音楽という存在は、いつも私たちに寄り添い自分自身を強くしてくれます。辛いとき、苦しいとき、ふと音楽に耳を傾けると、人はその旋律や歌詞に自身をもらい、時に大きな原動力を得ることができます。それは音楽がいつの時代も自由と希望の象徴であり続け、人と人を繋ぐ架け橋のような存在だからです。勝敗も正解もない音楽は、何にも縛られずに自分自身の思いや個性を表現し、伝えることができる唯一無二のものであります。そして、いつでも、どこでも、誰とでも創っていける、何よりも美しい私たちの一番近くにある芸術です。それを私は、コロナ禍を通して実感しました。誰にも会えない、語り合えない、そんな孤独と痛みを感じながら、音楽はただ一つ心に光を灯し、誰かに思いを伝えることができるかけがえのない存在でした。音楽に言語や国境の壁は存在しません。たとえ遠く離れていても音楽に込めた心は時空を超えて優しさと勇気を届けることができるのだと、音楽の持つ力に気づかされました。

情報に溢れる今の社会、人の想いは目にははっきりと見え不確実なものではありますが、友達と共に協力することで一つの音楽を創っていくその道のり、そしてその音楽を今日こうして奏で、皆様がくださった温かい拍手から、私たちの思いが心から心へ繋がっていくのを確かに感じる事ができました。今日私たちの音楽で満たされたこの時間は限りある短い時間ではありましたが、これまでのたゆまぬ努力が実を結び、生徒一人一人の煌めきと想いに溢れた素晴らしい時間だったと確信しています。今日の音楽会を通し、少しでも音楽の力、輝き、そして私たちの想いをお届けできていましたら幸いです。本日は本当に、ありがとうございました。

音楽会行事委員長